|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| P.3  P.5  P.6  P.7  P.8 | 2.間葉系幹細胞とは  動物の体には、さまざまな器官や臓器などに変化する（「分化す  る」といいます）細胞が存在します。この細胞は幹細胞（かんさい  ぼう）と呼ばれます。幹細胞療法とは、この細胞を体外で培養し、  体内に戻してあげることで、失われた臓器や怪我の再生を行う治療  法です。  （略）  3.自家幹細胞療法の方法  （略）  ごく稀な割合で、細胞の増殖不良、細菌の混入、また地震などの災害時において細胞が使用できなくなった場合、再度採取をお願いすることがあります。  4.期待される効果について  （略）  関節炎では、幹細胞は関節に新たな軟骨や骨膜を形成させ、痛みを和らげたり、炎症を抑制させると考えられています。  上記のような疾患において効果が期待される一方で、メリットがまったく得られない疾患やケースもあります。  5.予測される不利益やリスク  （略）  脂肪や骨髄液の採取には、全身麻酔を実施するため麻酔のリスクが存在します。さらに、細胞を培養するのに約2週間かかり、その間病気が進行してしまう恐れがあります。細胞培養には、ウシ胎児由来の血清（FBS）を用いるためウシに対してアレルギー反応を呈する動物はアナフィラキシー反応を起こすリスクが高まります。  幹細胞からは、新しく血管を作る物質が多く放出されると報告されており、すでにがんが塊として存在していた場合は、この物質の影響によりがんが大きくなってしまう可能性もあります。  6．他の治療法との比較  患者さんの病気の種類や現在の状態によってさまざまな治療法が考えれます。他の治療法と幹細胞療法とのメリットデメリットを担当獣医師より詳しく説明いたします。  7.幹細胞療法を受けるにあたって  幹細胞療法を受けるかどうかは、患者さんに決めていただくことで  あり、強制ではありません。また幹細胞療法を受けられない場合で  も、そのことにより現在の治療が受けられなくなったり不利益を被  ることはありません。さらに、幹細胞療法を受けていただいたあと  でも、理由に関係なく中止を希望する場合や継続が難しい場合には  いつでもやめることができますので、担当獣医師にご相談下さい。  いずれにおいても、担当獣医師はあなたにとって最適な治療をご相談します。  （新設）  同意文書  （動物病院）　 殿  私は｢幹細胞療法｣に関して、担当獣医師から説明文書を用いて説明を受け、理解しました。つきましては、幹細胞療法を受けることに同意します。今回、私が受ける幹細胞療法は以下です。  □　自家　骨髄由来間葉系幹細胞療法  □　自家　脂肪組織由来間葉系幹細胞療法  同意日：　　　　　年　　月　　日 患者氏名（動物）：  生年月日および年齢：  　　　　　　　　　　年　月　日　飼い主氏名：  　　　　　　　　　　 住所：  　　　　　　　　　　　　　　　　 電話番号：  私は、説明文書に基づき説明しました。  説明日：　　　　　年　　月　　日　獣医師署名：  　　　　　　　　　　　　　　　　　動物病院名：  　　　　　　　　　　　　　　　　　細胞培養責任者名：  　　　　　　　　　　　　　　　　　緊急連絡先： | 2.間葉系幹細胞とは  動物の体には、さまざまな器官や臓器などに変化する（「分化する」といいます）細胞が存在します。この細胞は幹細胞（かんさいぼう）と呼ばれます。幹細胞療法とは、この細胞を体外で培養し、体内に戻してあげることで、傷ついた器官や臓器の再生を行う治療法です。  （略）  3.自家幹細胞療法の方法  （略）  ごく稀な割合で、細胞の増殖不良、細菌の混入、また地震などの災害時において細胞が使用できなくなった場合、再度採取を行うことがあります。  4.期待される効果について  （略）  関節炎では、幹細胞が関節に新たな軟骨や骨膜を形成させ、痛みを和らげたり、炎症を抑制させると考えられています。その他にも、猫の口内炎や犬の炎症性腸疾患などの疾患においても有効性の確認が徐々にすすめられています。  上記のような疾患において効果が期待される一方で、メリットがまったく得られない疾患やケースもあります。  5.予測される不利益やリスク  （略）  脂肪や骨髄液の採取には、全身麻酔を実施するため麻酔のリスクが存在します。さらに、細胞を培養するのに約2週間かかり、その間に病気が進行してしまう恐れがあります。細胞培養には、ウシ胎子由来の血清（FBS）を用いるためウシに対してアレルギー反応を呈する動物はアナフィラキシー反応を起こすリスクが高まります。また、細胞培養には抗生物質も使用しているため薬物アレルギーを起こす可能性もあります。  幹細胞からは、新しく血管を作る物質が多く放出されると報告されており、すでにガンが塊として存在していた場合は、この物質の影響によりガンが大きくなってしまう可能性もあります。  6．他の治療法との比較  患者さんの病気の種類や現在の状態によってさまざまな治療法が考えれます。他の治療法と幹細胞療法とのメリットデメリットを獣医師より詳しく説明いたします。  7.幹細胞療法を受けるにあたって  幹細胞療法を受けるかどうかは、ご自身に決めていただくことであり、強制ではありません。また幹細胞療法を受けない場合でも、そのことにより現在の治療が受けられなくなったり不利益を被ることはありません。さらに、幹細胞療法を受けていただいたあとでも、理由に関係なく中止を希望する場合や継続が難しい場合にはいつでもやめることができますので、獣医師にご相談ください。  いずれにおいても、獣医師はあなたにとって最適な治療をご相談します。  9. 治療に係る費用について  病院スタッフより自家幹細胞療法に係る費用を詳細に説明します。それに加えて、自家幹細胞療法以外に併用するお薬や検査等についても別途費用が発生する場合があります。ご質問がある場合は病院スタッフに必ずお尋ねください。  同意文書  （動物病院）　 殿  私は｢幹細胞療法｣に関して、（削除）獣医師（実施者）から説明文書を用いて説明を受け、理解しました。つきましては、幹細胞療法を受けることに同意します。今回、私が受ける幹細胞療法は以下です。  □　自家　骨髄由来間葉系幹細胞療法  □　自家　脂肪組織由来間葉系幹細胞療法  同意日：　　　　　年　　月　　日 飼い主氏名：  患者氏名（動物）：  　　　　　　　　　　　　　　　　 生年月日および年齢：  　　　　　　　　　　 住所：  　　　　　　　　　　　　　　　　 電話番号：  私は、説明文書に基づき説明しました。  説明日：　　　　　年　　月　　日　獣医師（実施者）名：  　　　　　　　　　　　　　　　　　動物病院名：  　　　　　　　　　　　　　　　　　実施責任者名：  緊急連絡先： | （表記変更）  （表記変更）  （助詞変更）  （追加）  （追加）  （表記変更）  （追加）  （表記変更）  （表記変更）  （削除）  （表記変更）  （削除）  （削除）（表記変更）  （削除）  （項目新設）  （削除）（追加）  （順番変更）  （順番変更）  （削除・変更）  （表記変更）  （表記変更） |